

夢検

報道関係者各位

2022年11月08日

NPO法人夢検定協会

NPO法人夢検定協会の代表理事が東久邇宮文化褒賞を受賞

NPO法人夢検定協会（本部：東大阪市森河内西2-36-15）の代表理事である琵琶 博之が、「令和4年東久邇宮文化褒賞」を受賞しました。また、団体として、マニフェスト大賞エリア選抜にも選ばれていますので、あわせてお知らせさせていただきます。

■1. 東久邇宮文化褒賞の受賞条件（東久邇宮記念会のホームページから転載）

東久邇宮文化褒賞は、評議委員会によって選ばれます。受賞条件として、以下に該当する方となります。

- (1) 文化的活動（芸能、音楽、教育、医療、福祉、奉仕活動等）に従事し、振興に携わっていること。
- (2) 文化的活動における社会的評価を受けていること。
- (3) 人格的にも優れ、将来への展望を持ち、努力を怠らない者。

■2. 受賞日等

受賞名：東久邇宮文化褒賞

受賞者：琵琶博之

（東大阪市在住。1972年生まれ。NPO法人夢検定協会 代表理事）

受賞日：2022年11月3日

■3. マニフェスト大賞エリア選抜の内容（マニフェスト大賞のホームページから転載）

マニフェスト大賞は、地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを募集し、表彰するものです。第17回マニフェスト大賞エリア選抜は、応募総数3,133件から185件の取り組みを選びました。

■4. 受賞日等

受賞名：マニフェスト大賞エリア選抜

受賞者：NPO法人夢検定協会

受賞日：2022年9月30日

■5. 本件に関する問合せ先

NPO法人夢検定協会 (<https://yumekentei.or.jp/>)

代表理事 琵琶 博之

TEL: 090-7967-1303

MAIL: biwa@gold.ocn.ne.jp

*同志社大学大学院 ソーシャル・イノベーションコース在籍

【別添 令和4年 東久邇宮文化褒賞の由来とご案内】

令和4年 東久邇宮文化褒賞の由来とご案内

終戦後の昭和21年、当時、衆議院議員だった私は、発明振興の為、発明振興議員連盟をつくって幹事長になり、専くしていった。その時たまたま東久邇宮盛厚殿下にお目にかかった。殿下の発明哲學は、「発明には上下の別はない。ノーベル賞を100とするよりも國民一人一人の小発明が大切だ。旨いミソ汁を考えた人には『文化勲章』を与えよ。」という思想だった。私は痛く感激した。この「文化勲章論」は、議員連盟75人の心を打った。

それから、殿下と私の二人三脚の運動が続いた。そして、私でさえ藍綬褒章を賜った。それを機会に、私は科学技術庁の中に褒章クラブを創った。この褒章クラブは科学技術庁長官が顧問、私が幹事長となり、3年も続き、科学技術庁公認の団体となつた。当時、この褒章クラブの450人が言ったのが、「勲章で最高なのが文化勲章である。それなら褒章で最高なのは文化褒章でなくてはならぬ。それを我々が創って与えよう。」と創ったのが始まりで、その第一号は日刊工業新聞の白井十四雄社長である。

その科学技術庁が今回、文部省と合併して無くなつたので、褒章クラブも無くなつた。

ところが、褒章クラブの中心だった中小企業の社長連中が「あの文化勲章は文化勲章に匹敵する賞である。これは長く中小企業の社長に与えるべきだ。」と私のところに沢山寄ってきた。そこで、私は百歳になったのを記念して、もう一働きと思って、「文化褒賞クラブ」を復活したのである。今、この文化褒賞は恐ろしく中小企業の社長から切望されている。皆さんもぜひ受賞してもらいたい。

平成19年9月 豊澤 豊雄 謹記



受賞された皆様には、左記の賞状と下記の徽章が授与されます。

徽章は、豊澤豊雄名誉会長と吉村靖弘会長がデザインされたものです。

徽章の張子には、純銀製の土台に日本伝統工芸の一つと言われる「七宝」が施されています。



豊澤豊雄名誉会長（左）と東久邇宮盛厚殿下（右）



東久邇佳子様を囲む会 平成19年10月 京都萬重にて

大衆発明を奨励された東久邇宮盛厚殿下と
大衆発明生みの親、豊澤豊雄名誉会長を称える

東久邇宮記念会
特定非営利活動法人発明文化研究会

【参考：代表理事の写真】

